

## 宮崎県沿岸で採集されたミツクリウロコムシ (?) の巨大な吻

西 川 輝 昭\*

Teruaki NISHIKAWA\*: A separated giant proboscis probably of *Eupolyodontes mitsukurii* (IZUKA) from the Pacific coast of Kyushu, Japan (Polychaeta, Acoetidae)

### はじめに

多毛類ホガタウロコムシ科 Acoetidae に属する大形の稀種ミツクリウロコムシ *Eupolyodontes mitsukurii* (IZUKA, 1904) のものと思われる巨大な吻がひとつ、九州のほぼ南東端に位置する宮崎市市木 (いちぎ) 沖から採集された。その外見は、SF 映画「エイリアン」に登場した凶暴な地球外生物をも連想させる一風変わったものである。ここに簡単に記載して報告する。なお、本標本は京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所に保管されている (SMBL Rare Specimen No. 299)。

### 吻の採集

標本 (図 1) は、宮崎県串間市市木沖に浮かぶ鳥島の東、水深 132 m の泥底から、1986 年 6 月 25 日に採集された。宮崎県南那珂郡南郷町の漁師谷 清祝氏がアマダイ旗流し漁の作業中に入手されたもので、このアルコール液浸標本が水産大学の林 健一教授から筆者に恵与された。

谷氏の私信によれば、立縄釣りとも呼ばれるこの漁法は日中にだけ行なわれ、日向灘の深さ 100~160 m の泥底に沈めた錘から延縄を流す。錘は流れに揺れ動く程度の重さとする。餌はおもに体長 4~5 cm の小エビを使用するが、これに食いついてきたのが今回の吻の持ち主というわけである。分離した同じような吻は年に数個体かかるが、釣れた魚類に噛みついていた例はない。数年前には体長 30 cm、体幅 4 cm ほどの虫体が針にかかったことがあったが、惜しいことに、すぐに海に戻してしまった由である。こうした記録から見ると、上記海域におけるこの多毛類の密度は低くないようである。

### 吻の形態と同定

吻は全長約 120 mm の細長いメガフォン状である。2 対の顎をもつ前端部が直径約 30 mm で最も太く、次第にすばまって後端は直径約 15 mm となる。吻の前縁の

背および腹正中から鞭状の中央突起がそれぞれ 1 本出る (図 1)。背腹を決める手がかりがないので、以下の記載はそれを特定せずに行わざるをえない。中央突起の長さは 23 mm と 26 mm で、長い方の根元に近い部分に小さな瘤がある。この瘤のなかには寄生虫など外来性ものは認められなかった。吻前端部約 25 mm は側壁が湾曲して円筒形をたもち黄褐色を呈するが、それ以降は左右に扁平となり薄黄色である。側扁部の前半約 50 mm の部分では、その内壁に幅広で厚い筋肉束が左右各 1 つ縦走している。この筋肉束が消失する約 10 mm 前方の左右の外壁中央から、外にむかって細い肉性の紐 (長さ約 35 mm) が各 1 本突出する。

中央突起と吻の外縁を飾る歯状隆起は、クチクラ化した白色平滑な表皮に覆われている。歯状隆起は、上縁部

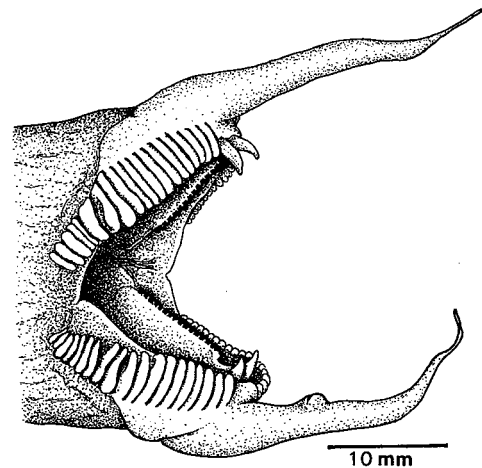


図 1 ミツクリウロコムシ *Eupolyodontes mitsukurii* (IZUKA, 1904) のものと思われる吻の前端部側面観

Fig. 1. Anterior end of the separated proboscis probably of *Eupolyodontes mitsukurii* (IZUKA, 1904) collected at a depth of 132 m from the coast of southeastern Kyushu, Japan. Side view.

\* 名古屋大学大学院人間情報学研究科環境情報論講座 (〒464-01 名古屋市千種区不老町)  
Graduate School of Human Informatics, Nagoya University, Chikusa-ku, Nagoya 464-01 Japan

と下縁部が区別され、さらに中央突起によって左右に分けられる(図1参照)。こうして識別される各4半部における隆起の数はそれぞれ19ないし20, 総計77に達する。2対の顎は大きく、頑丈で茶褐色を呈し、大部分は吻の内壁に埋まり込むが、先端のきば状突起とそれに続く小歯(乳頭状の小突起)だけが裸出している。小歯の数は各顎で変異なく、すべて15である。

宮崎県産標本のこうした形状はミツクリウロコムシの吻のこれまでの記載とよく一致し、原記載にある図(IZUKA, 1904, pl. 1, fig. 1)とも酷似する。ただし、歯状隆起の数や顎の小歯数ではわずかに差がある。すなわち、これらの器官が記載されている相模湾産の2個体においては、歯状隆起数は各4半部でいずれも17(総計68)、また顎の小歯数もすべて17なのである(IZUKA, 1904, 1912; NISHI, 1996)。この差が成長に伴う変異なのかあるいは地理的変異に帰すべきものか、などといった議論は、吻だけによる同定が不正確さを免れない現段階では差し控えたい。完全個体の採集がまたれる。

かりに今回の同定が正しければ、この吻の標本はミツクリウロコムシの本州沿岸以外からの初記録となる。というのは、本種はこれまで、相模湾(約180m深)、浦賀水道(約130m)、房総半島南方(深度不明)および和歌山県すさみ町沖(100m)から、分離した1つの吻を含めて計7点の標本が採集されているにすぎないからである(IZUKA, 1904, 1912; PETTIBONE, 1989; NISHI, 1996; 内田, 1996)。

なお、相模湾530m深からただ1個体が採集されているホガタウロコムシ科の別種フカミウロコムシ *Panthalis jogasimae* IZUKA, 1912の吻は、今回の宮崎産標本と同様に中央突起をもつが、歯状隆起が総計28個、それぞれの顎の小歯は6~7個にすぎない。この点では明らかに今回の標本と異なる。念のため付記する。

## 謝 辞

標本を採集され、またそれにまつわる貴重な情報を提供して下さった谷 清祝氏、標本を調べる機会を与えていただいた水産大学の林 健一教授、および、有益なご助言やご教示を賜った海中公園センター鏑浦研究所

の内田紘臣博士と千葉県立中央博物館の西 栄二郎博士に深謝する。

## 文 献

- IZUKA, A. 1904 : On a new species of deep-sea Polychaeta. *Annot. Zool. Japan*, 5, 23-29.
- . 1912 : The errantiate Polychaeta of Japan. *J. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo*, 30(2), 1-262.
- NISHI, E. 1996 : Supplementary description of *Eupolyodontes mitsukurii* (IZUKA, 1904) (Annelida: Polychaeta: Acoetidae) based on the discovery of types in the University Museum and Misaki Marine Biological Station of the University of Tokyo. *Species Diversity*, 1, 31-38.
- PETTIBONE, M. H. 1989 : Revision of the aphroditoid polychaetes of the family Acoetidae KINBERG (=Polyodontidae AUGENER) and reestablishment of *Acoetes* AUDOUIN and MILNE-EDWARDS, 1832, and *Euarche* EHLERS, 1887. *Smithsonian Contributions to Zoology*, 464, 1-138.
- 内田紘臣. 1996 : 巨大なウロコムシ. マリンベビリオン, 25, 65.

## Summary

A separated giant proboscis (=fully everted pharynx) probably of an acoetid polychaete *Eupolyodontes mitsukurii* (IZUKA), ca. 120 mm long and up to 30 mm in diameter, was collected at a depth of 132 m from east of Torishima Islet off Ichigi, Miyazaki Prefecture on the Pacific coast of Kyushu, Japan, in 1986. The specimen, registered as Seto Marine Biological Laboratory Rare Specimen No. 299, was different from the previous descriptions of the proboscis of the species from Sagami Bay in the total number of border (=tooth-like) papillae (77, instead of 68 in the previous records), and in the number of lateral teeth on each margin of 2 pairs of hooked jaws (15, instead of 17).

## 南 紀 生 物

第39巻 第1号 別刷

Reprinted from  
NANKISEIBUTU : The Nanki Biological Society  
Vol. 39, No. 1  
May 1997